

土岐善麿短歌賞

連作の部

【最優秀賞】

「流転」

齋藤 千穂

小学校跡地に咲いたコスモスが炎みたいにあかるく揺れる

真新しい銀のピアスが眩しくて思わずあなたから目を逸らした

届かないごめんねばかり繰り返す 賞味期限の切れたカステラ

公園の遊具が塗り替えられていて思い出にふとノイズが混じる

テノールは響いた過去の弟をすべて飲み込むぐらいに深く

虫の音がふつりと聞こえなくなって T シャツ越しの重たい夕日

秋時雨 おかけになった番号は現在使われておりません

ブルーレイディスクきらきら永遠を閉じ込めておくための虹色

明滅を止めて信号機はねむる星の終わりを見届けてから

流転 秋風に吹かれてコスモスが揺れる姿をずっと見ていた